

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173600487		
法人名	TNふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホーム日吉 A棟		
所在地	苫小牧市日吉町3丁目1番9号		
自己評価作成日	2025年11月19日	評価結果市町村受理日	2026年1月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action.kouhyou_detail.022.kani=true&JigvosyoCd=0173600487-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	2025年12月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方それぞれ得意な分野での役割を持てるよう工夫し、個々の習慣ややりたいことを継続できるように取り組みを行いながら毎日を活き活き暮らしていけるよう支援をしています。また、昔ながらの季節ごとの催し物や地域の方との交流、外出行事等を行い季節の移り変わりやホーム外の雰囲気を感じ取れるよう心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から26年目を迎える「グループホーム日吉」は、最寄りのJR駅やバス停から近く、近隣には市体育館、小学校、公園、コンビニエンスストアなどがある閑静な住宅地に立地する平屋建て2ユニットの事業所である。玄関を中心に左右に各ユニットを配置し、敷地・共用空間・居室など全体的にゆとりのある造りとなっており、居室前の廊下は歩行訓練にも活用されている。居間ではソファや椅子に座り体操する姿や、畳敷きの小上がりで横になりくつろぐ姿が見られる。浴室は三方向からの支援が可能で利用者全員が湯船に浸かることができ、トイレも車いす利用や2名介助に対応した広さを確保している。法人理念およびケア理念に基づき、各ユニット目標を毎月職員で話し合い、日々の支援に反映させている。地域との交流も活発で、利用者は地域包括支援センター主催の運動会や町内会行事のフラワーアレンジメントの催しにも参加している。毎月発行の「ひよし便り」や法人ホームページで公開の写真、運営推進会議の議事録を通じて、日々の様子や運営の現状、課題とその解決策等を丁寧に伝えており、職員同士の良好な関係のもと笑顔ある支援が行われ、家族からの信頼も厚い事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニット及び玄関に理念を掲示し常に意識できるようにしている。また、月ごとに理念を念頭においた目標を職員が立て実施している。	玄関に法人理念を掲げ、各ユニット入り口にはケア理念を掲示している。新入職者研修や会議を通して理念を意識する機会を設け、各ユニットでは毎月、理念に基づいた目標を職員間で決め、共有しながら支援に臨んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事や活動に参加をしている。また、散歩や外気浴等の機会の中で地域住民と自然に会話するよう心がけている	町内会に加入し、清掃活動や資源回収に協力している。また、利用者は町内会婦人部主催のフラワーアレンジメントの催しに参加したり、地域包括支援センター主催の運動会に参加し、地域の子どもたちと交流も行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会行事や避難訓練・運営推進会議等を活用し認知症に関する理解と協力をお願いしている。また、HPで日々の暮らしを伝える工夫を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議内で事業所の活動や事故等の報告を行い、意見をいただいている。	運営推進会議は市介護福祉課職員、地域包括支援センター職員、町内会関係者、家族の参加があり、2か月ごとに開催している。事業所の現状報告や活動に関するテーマを設定し、地域の問題や課題等も含め活発な意見交換が行われている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議での報告、必要時には連絡・相談を行う体制をとっている。	各種報告等は管理者が郵送や電話連絡などで行っている。運営推進会議に市介護福祉課職員が参加しているため、いつでも相談できる関係が築かれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新入職者に対する虐待・身体拘束研修の実施をはじめ、定期的に不適切ケアを含めた研修を実施し職員全体に周知している。	指針を整備し、「不適切ケア防止委員会」を定期的に開催している。委員会の内容は職員に周知している。年2回の研修も行われ、研修では「身体拘束の具体的な行為」11項目も確認し、職員は研修報告書の提出も行っている。今年度2回目は1月に実施予定である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回の虐待研修の実施。月のカンファレンスや会議等で常にケアの質を検討している。		

ふれあいの里 グループホーム日吉

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度においては現入居者が活用しており、その必要性を感じる機会が持っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	都度文書にて説明を行い同意を得ている。また、疑問点等あれば連絡先を明記し必要に応じて対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン説明時や面会時には都度要望等の意見を伺っており、各ユニットごとに意見ノートを設置し伝えやすい工夫を行っている。	面会時や電話連絡時、ケアプラン更新時に家族の要望や意向を聞き取るよう努めている。また、毎月「ひよし便り」を発送し、事業所での暮らしぶりを伝えている。年に1度、家族アンケートも実施しているが、返送はない状態である。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスでの意見交換や、日々の関わりの中で機会を設けている。	職員意見は日常業務の中で聞き取り、意見や提案は職員間で共有し、業務に反映させている。また、職員は様々な役割を担い、運営に参加している。自己評価表の作成にも参加している。希望休の取得も可能となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回の昇給や資格支援制度の積極的な活用等で目標を設定し働ける環境を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な管理者への内外の研修の実施があり、現場職員に向けてはeラーニングを活用し社内研修を行っている他社外の研修の情報提供や参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修やグループ会社との連携等で機会を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時に可能な限り困りごとややりたいこと等の聞き取りを行い、他事業所からの情報等活用しアセスメントを行いながら安心できる暮らしの継続に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の段階からご家族の思いを傾聴し、確認を行い話し合う機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の要望をふまえながら、課題を見つけ、柔軟に対応できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることを継続できる環境を常に心がけており、心身共に活性できる支援を心がけている。また、昔の遊びや習慣等職員が知らないことを教わったりと、同じ目線で会話や対応を行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	かかりつけ医の受診や外出支援等できる範囲でのご家族の協力をいただいている。また、ホーム側との連携がとれるよう情報交換を行えるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	美容室等いきつけの場所がある場合は、ご本人やご家族の状態が可能な限り継続できるよう支援を行っている。	家族や親族の面会があり、面会制限なく交流している。また、家族と法事などの外出や外食をする方もいる。職員は利用者の生活歴を把握し会話の中で話題を提供している。夏祭りや敬老会は家族の参加もあり、にぎやかに行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共に暮らす仲間として互いに認め合い、助け合える関係性を構築できるよう、協力し合える場面作りや談笑の場の提供を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時には気軽に来訪していただけるような声掛けを行い、立ち寄りやすい雰囲気作りを心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人や御家族からの聞き取りやご本人の言動、フェースシート等を活用しケアプランに反映させている。	会話から思いや意向を把握できる方もいるが、難しい方も生活歴や過去の支援で得た情報を基に、職員間で検討している。新たに得られた情報は個人シートに追記し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェースシートを参考にし、ご本人・ご家族からの聞き取り、生活する中での言動も含め把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状況に目を配り、アセスメントシート等で把握に努め、一人一人に合ったサービスを提供している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族には都度要望等を聞き取りし、各職員から毎月意見集約を行いカンファレンス等で話し合いながら介護計画に反映している。	全職員で毎月モニタリングを行い、担当者が評価表や職員意見を集約し、3~4か月で介護計画を作成している。記録はタブレット端末を使用し、本人の言葉も加えて記録するなど、丁寧に行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録や申し送りで情報共有に努め統一した実践につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の意向やご家族の要望・状況に合わせながらできる限り柔軟な対応を心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	成年後見人制度・訪問理美容・訪問販売・町内会活動等を活用し支援を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を希望される場合には、継続し通院できるよう情報提供や状況に応じて受診動向を行っている。	月に1回~2回訪問の協力医の往診を受ける方と、利用開始前からのかかりつけ医を受診している方がいる。定期受診は家族の協力を得ているが、病状に変化がある方や車いすを使用する方は職員が同行支援している。歯科医も往診可能となっている。	

ふれあいの里 グループホーム日記

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携先の看護師が月2回の訪問看護を行っており情報提供と相談を都度行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には生活歴を含めた情報提供を行い対応している。入院中にも経過の確認を行いながら円滑に早期退院に向け話し合いを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所の指針を作成し相談時及び入居時に説明を行っている。また、協力医とも状況に応じ都度意見交換を行っている。	利用開始時に「重度化した場合の対応に係る指針」を基に説明し、現状では看取り対応が難しいことを伝えている。医師から終末期と判断された場合は、医師、家族と話し合い、職員は事業所で出来得る支援に努め、医療機関等への移行支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各ユニット事務所に急変時の対応についての手順を張り出し、確実な対応ができるよう努めている。また、起こり得る可能性のある事柄について指示等行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	各職員・入居者参加型の訓練を定期的に行っており、消防や地域と連携できる体制をとっている。	1回目の火災避難訓練を夜間想定で行っている。2回目は昼間想定で年度内に行う予定である。実際に津波警報が発令し、近隣の小学校に避難している。その際の課題点など地域を含め話し合っている。	入浴やトイレ介助時など、場面を想定した避難方法・手順の話し合いを行うことを期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	不適切ケアの重要性を理解し定期的な委員会の開催を行いながらカンファレンス時にも話し合う等職員全体に周知できるよう努めている。	接遇研修を行い、一人ひとりに合わせた適切な声かけを行っている。申し送りはタブレット端末を使用し、小声で行っている。個人情報書類は適切に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員側で一方向的に決めつけることはせず、ご本人の生活スタイルや思いをくみ取りながらご本人自身が決定できる支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の今までの暮らしぶりや性格、環境等も考慮し各入居者のペースを保っていただける支に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人のこだわりを尊重した支援を行い、日常着の選択や理美容の際はご本人の希望を伺い、伝える等の工夫を行っている。		

ふれあいの里 グループホーム日吉

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人の能力や得意なことを活かせるよう食事作りや盛り付け、配膳、後片付けを入居者・職員一緒に行っている。	配食業者から食材が届き、職員が調理している。誕生日は本人のリクエストに応え、行事食のほか、おはぎ作りや、事業所前でバーベキュー、畑の野菜も使用して、できることは一緒に行い、楽しい時間となっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食べることのできる量や形状をを把握し盛り付け断簡で調整している。また、ご本人の状況に合わせて飲食のしやすいタイミングで提供を行う等工夫している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。また、歯科往診や指導等活用できる環境を作っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各入居者個々の排泄パターンをアセスメントし、タイミングをみながら声掛けや誘導を行いトイレでの排泄につなげている。	全員の排泄記録から適時事前誘導を行い、日中は座位が保てる方は羞恥心に配慮しながらトイレでの排泄支援を行っている。利用開始後、適切な支援で布下着に改善した方もいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操、腹部マッサージ、水分摂取、乳製品を取り入れる等行っている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間はある程度決めてはいるが、本人の状況や希望があれば柔軟に対応している。	ひとり週2回の入浴支援を行っている。全ての曜日で入浴が可能となっている。午前午後と希望の時間帯で支援し、シャンプーやボディーソープも好みの物を使用している。ヒートショック対策も行い、同性介助も対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は個々の生活パターンに合わせ、照明も希望に合わせて明るさを調整している。また、日中も畳コーナーやソファ等でくつろげる場所を作っている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表の作成や緊急時ファイルにて観覧しやすい工夫を行っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活を送る中でそれぞれが役割を持てるよう介護計画を作成している。また、季節行事を通して昔を懐かしんだり四季を感じていただく工夫を行っている。			

ふれあいの里 グループホーム日吉

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や屋外への外出希望がある場合には調整し実行している。他行事でも外出の機会を作るよう対応している。	季節の良い時期は車いすや歩行器を使用する方も事業所周辺を散歩している。行事として花見や紅葉狩り、近くの浜辺に出かけ家族差し入れのアイスクリームを食べるなど、外出の機会をつくっている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人・ご家族の同意を得た上で、おこずかい程度の現金は所持できるようにしており、希望があれば買い物の支援も行える体制をとっている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があればいつでもホームの電話を使用できる状態となっており、相手からの電話もつなぐこともある。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的に日当たりが良く光が差し込み温かみのある空間となっており、カーテン等で都度調整を行っている。居間には季節ごとに作成した壁飾りを配置する等工夫し季節を感じ取れるようにしている。	建物全体が床暖房で各所に温度差がなく快適に過ごすことができる。居間兼食堂は広く、窓からの光も明るい。台所から利用者の様子を見守ることができる造りで、畳敷きの小上がりでくつろぐ姿も見られる。壁には写真や季節の装飾、利用者の作品も飾られている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	複数が集まれる場所としてソファの配置を工夫したり、少し離れたところにも椅子やソファを置き、他者の気配を感じつつも静かに過ごせる場所の工夫を行っている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時の説明の際に、ご本人の使い慣れた物を持ち込めるようお願いしている。また、趣味のものを飾る等自分らしさがみられる居室となっている。	居室入り口にはネームプレートが飾られ、自室が分かりやすくなっている。洗面台が備え付けられ、ベッドや整理棚、テレビ、家族写真、お気に入りの物が持ち込まれている。カーベットを敷くなどそれぞれに安心して過ごせる部屋となっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物干しは高さ調節可能なものとし、立っても座ってもその方に合った高さで作業を安全に行えるよう工夫している。			

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173600487		
法人名	TNふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホーム日吉 B棟		
所在地	苫小牧市日吉町3丁目1番9号		
自己評価作成日	2025年11月19日	評価結果市町村受理日	2026年1月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方それぞれ得意な分野での役割を持てるよう工夫し、個々の習慣ややりたいことを継続できるように取り組みを行いながら毎日を活性させ暮らしていけるよう支援をしています。また、昔ながらの季節ごとの催し物や地域の方との交流、外出行事等を行い季節の移り変わりやホーム外の雰囲気を感じ取れるよう心掛けています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kajikokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action.kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosyoCd=0173600487-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	2025年12月22日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニット及び玄関に理念を掲示し常に意識できるようにしている。また、月ごとに理念を念頭においた目標を職員が立て実施している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事や活動に参加をしている。また、散歩や外気浴等の機会の中で地域住民と自然に会話するよう心がけている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会行事や避難訓練・運営推進会議等を活用し認知症に関する理解と協力をお願いしている。また、HPで日々の暮らしを伝える工夫を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議内で事業所の活動や事故等の報告を行い、意見をいただいている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議での報告、必要時には連絡・相談を行う体制をとっている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新入職員に対する虐待・身体拘束研修の実施をはじめ、定期的に不適切ケアを含めた研修を実施し職員全体に周知している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回の虐待研修の実施。月のカンファレンスや会議等で常にケアの質を検討している。		

ふれあいの里 グループホーム日吉

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度においては現入居者が活用しており、その必要性を感じる機会が持っている			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	都度文書にて説明を行い同意を得ている。また、疑問点等あれば連絡先を明記し必要に応じて対応している。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン説明時や面会時には都度要望等の意見を伺っており、各ユニットごとに意見ノートを設置し伝えやすい工夫を行っている。			
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスでの意見交換や、日々の関わりの中で機会を設けている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回の昇給や資格支援制度の積極的な活用等で目標を設定し働ける環境を作っている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な管理者への内外の研修の実施があり、現場職員に向けてはeラーニングを活用し社内研修を行っている他社外の研修の情報提供や参加を促している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修やグループ会社との連携等で機会を作っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時に可能な限り困りごとややりたいこと等の聞き取りを行い、他事業所からの情報等活用しアセスメントを行いながら安心できる暮らしの継続に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の段階からご家族の思いを傾聴し、確認を行い話し合う機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の要望をふまえながら、課題を見つけ、柔軟に対応できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることを継続できる環境を常に心がけており、心身共に活性できる支援を心がけている。また、昔の遊びや習慣等職員が知らないことを教わったりと、同じ目線で会話や対応を行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	かかりつけ医の受診や外出支援等できる範囲でのご家族の協力をいただいている。また、ホーム側との連携がとれるよう情報交換を行えるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	美容室等いきつけの場所がある場合は、ご本人やご家族の状態が可能な限り継続できるよう支援を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共に暮らす仲間として互いに認め合い、助け合える関係性を構築できるよう、協力し合える場面作りや談笑の場の提供を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時には気軽に来訪していただけるような声掛けを行い、立ち寄りやすい雰囲気作りを心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人や御家族からの聞き取りやご本人の言動、フェイスシート等を活用しケアプランに反映させている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートを参考にし、ご本人・ご家族からの聞き取り、生活する中での言動も含め把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状況に目を配り、アセスメントシート等で把握に努め、一人一人に合ったサービスを提供している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族には都度要望等を聞き取りし、各職員から毎月意見集約を行いカンファレンス等で話し合いながら介護計画に反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録や申し送りで情報共有に努め統一した実践につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の意向やご家族の要望・状況に合わせながらできる限り柔軟な対応を心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	成年後見人制度・訪問理美容・訪問販売・町内会活動等を活用し支援を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を希望される場合には、継続し通院できるよう情報提供や状況に応じて受診動向を行っている。		

ふれあいの里 グループホーム日吉

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携先の看護師が月2回の訪問看護を行っており情報提供と相談を都度行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には生活歴を含めた情報提供を行い対応している。入院中にも経過の確認を行いながら円滑に早期退院に向け話し合いを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所の指針を作成し相談時及び入居時に説明を行っている。また、協力医とも状況に応じ都度意見交換を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各ユニット事務所に急変時の対応についての手順を張り出し、確実な対応ができるよう努めている。また、起こり得る可能性のある事柄について指示等行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	各職員・入居者参加型の訓練を定期的に行っており、消防や地域と連携できる体制をとっている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	不適切ケアの重要性を理解し定期的な委員会の開催を行いながらカンファレンス時にも話し合う等職員全体に周知できるよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員側で一方的に決めつけることはせず、ご本人の生活スタイルや思いをくみ取りながらご本人自身が決定できる支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の今までの暮らしぶりや性格、環境等も考慮し各入居者のペースを保っていただける支に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人のこだわりを尊重した支援を行い、日常着の選択や理美容の際はご本人の希望を伺い、伝える等の工夫を行っている。		

ふれあいの里 グループホーム日吉

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人の能力や得意なことを活かせるよう食事作りや盛り付け、配膳、後片付けを入居者・職員一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食べることのできる量や形状をを把握し盛り付け断簡で調整している。また、ご本人の状況に合わせ飲食のしやすいタイミングで提供を行う等工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。また、歯科往診や指導等活用できる環境を作っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各入居者個々の排泄パターンをアセスメントし、タイミングをみながら声掛けや誘導を行いトイレでの排泄につなげている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操、腹部マッサージ、水分摂取、乳製品を取り入れる等行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間はある程度決めてはいるが、本人の状況や希望があれば柔軟に対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は個々の生活パターンに合わせて、照明も希望に合わせて明るさを調整している。また、日中も畳コーナーやソファ等でもくつろげる場所を作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表の作成や緊急時ファイルにて観覧しやすい工夫を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活を送る中でそれぞれが役割を持てるよう介護計画を作成している。また、季節行事を通して昔を懐かしんだり四季を感じていただく工夫を行っている。		

ふれあいの里 グループホーム日吉

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や屋外への外出希望がある場合には調整し実行している。他行事でも外出の機会を作るよう対応している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人・ご家族の同意を得た上で、おこずかい程度の現金は所持できるようにしており、希望があれば買い物の支援も行える体制をとっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があればいつでもホームの電話を使用できる状態となっており、相手からの電話もつなぐこともある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的に日当たりが良く光が差し込み温かみのある空間となっており、カーテン等で都度調整を行っている。居間には季節ごとに作成した壁飾りを配置する等工夫し季節を感じ取れるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	複数が集まれる場所としてソファの配置を工夫したり、少し離れたところにも椅子やソファを置き、他者の気配を感じつつも静かに過ごせる場所の工夫を行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時の説明の際に、ご本人の使い慣れた物を持ち込めるようお願いしている。また、趣味のものを飾る等自分らしさがみられる居室となっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物干しは高さ調節可能なものとし、立っても座ってもその方に合った高さで作業を安全に行えるよう工夫している。		